

【24】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>皮膚科学 (Dermatology)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>相馬良直</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>皮膚科学は皮膚についての医学、生理学すべてを含む学問である。優れた皮膚科医となるためには、皮膚疾患についての臨床的事項だけでなく、皮膚の構造や生理についての幅広い知識が必要であることはいうまでもない。本分野においては、皮膚科学全般についての高度な知識を身につけること、皮膚科学の研究手法を学び実践すること、得られたデータを正しく解析し分かりやすく発表する能力を会得することなどを目的とし、研究の素晴らしさを体験して生涯持続する研究マインドが身につくことを最終目標としている。本分野の大学院生には、これらの点を十分に自覚し、皮膚科学の進歩に寄与できるような活躍をすることが期待される。</p> <p>具体的に学び、研究すべき項目は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 皮膚を構成する細胞(ケラチノサイト、メラノサイト、線維芽細胞、血管内皮細胞など)についての細胞生物学</li> <li>2) 皮膚の免疫機構</li> <li>3) 免疫機構の異常が関係して発症する疾患(アトピー性皮膚炎、膠原病、血管炎など)の病態生理</li> <li>4) 皮膚癌の発癌、増殖、転移などのメカニズム</li> <li>5) アトピー性皮膚炎、膠原病、血管炎、悪性黒色腫などの検査法、治療法</li> </ol>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メラノサイトの分化増殖のメカニズムとメラニン合成の制御</li> <li>2. 悪性黒色腫の増殖転移のメカニズムとその制御</li> <li>3. アトピー性皮膚炎の既存治療法の評価と新規治療法の開発</li> <li>4. 膠原病の臨床研究</li> <li>5. 血管炎の臨床研究</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に参考資料を読むこと</li> <li>・授業後にはレポートを提出すること</li> </ul>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	皮膚科学特論		必修/選択 必修		
担当教員	相馬良直	担当教員連絡先	内線 3235		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	皮膚科学の総論を学ぶ。				
講義計画	皮膚科学の歴史、皮膚の構造と機能、皮膚の生理学、皮膚の生化学、皮膚症候学、皮膚科学的検査法などを学ぶ。				
達成目標	上記の項目を理解し説明できる。				
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	皮膚科学の歴史(1)		1	角化関連蛋白	
2	皮膚科学の歴史(2)		2	細胞接着分子	
3	皮膚の構造と機能、表皮(1)		3	角層間脂質	
4	皮膚の構造と機能、表皮(2)		4	コラーゲン	
5	皮膚の構造と機能、表皮(3)		5	細胞外マトリックス	
6	皮膚の構造と機能、真皮(1)		6	皮膚症候学(1)	
7	皮膚の構造と機能、真皮(2)		7	皮膚症候学(2)	
8	皮膚の構造と機能、付属器(1)		8	皮膚症候学(3)	
9	皮膚の構造と機能、付属器(2)		9	皮膚症候学(4)	
10	皮膚の構造と機能、付属器(3)		10	皮膚症候学(5)	
11	発汗機能		11	皮膚科学検査法(1)	
12	感覚機能		12	皮膚科学検査法(2)	
13	ケラチン(1)		13	皮膚科学検査法(3)	
14	ケラチン(2)		14	皮膚科学検査法(4)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学
講義題目	皮膚免疫学(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	川上民裕	担当教員連絡先	内線 3236
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	皮膚の免疫学の基礎と臨床を学ぶ		
講義計画	免疫学の基礎と免疫が関与する疾患の臨床を学ぶ。		
達成目標	1. 皮膚の免疫学の基礎的事項を理解し、説明できる。 2. 免疫が関与する疾患の病態を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回) 内 容 (出席Ⓢ)
1	免疫学の基礎(1)		1 アトピー性皮膚炎の病態生理(1)
2	免疫学の基礎(2)		2 アトピー性皮膚炎の病態生理(2)
3	免疫学の基礎(3)		3 アトピー性皮膚炎の病態と臨床(1)
4	皮膚の免疫担当細胞(1)		4 アトピー性皮膚炎の病態と臨床(2)
5	皮膚の免疫担当細胞(2)		5 膠原病の病態生理(1)
6	皮膚の免疫担当細胞(3)		6 膠原病の病態生理(2)
7	皮膚免疫・アレルギー反応(1)		7 膠原病の病態と臨床(1)
8	皮膚免疫・アレルギー反応(2)		8 膠原病の病態と臨床(2)
9	皮膚免疫・アレルギー反応(3)		9 血管炎の病態生理(1)
10	免疫異常(自己免疫)(1)		10 血管炎の病態生理(2)
11	免疫異常(自己免疫)(2)		11 血管炎の病態と臨床(1)
12	免疫異常(自己免疫)(3)		12 血管炎の病態と臨床(2)
13	免疫異常(免疫不全)(1)		13 その他の疾患の病態生理(1)
14	免疫異常(免疫不全)(2)		14 その他の疾患の病態生理(2)
15	前期総合討論と発表		15 後期総合討論と発表

講義担当者承認 ㊦

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学
講義題目	皮膚腫瘍学(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	門野岳史	担当教員連絡先	内線 3237
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	皮膚の腫瘍学の基礎と臨床、研究技法を学ぶ。		
講義計画	総論として、腫瘍の発生、増殖、転移のメカニズムを学び、各論として種々の腫瘍の特性を学ぶ。		
達成目標	皮膚の腫瘍学の基礎と臨床を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	腫瘍発症のメカニズム総論(1)	1	悪性黒色腫臨床(1)
2	腫瘍発症のメカニズム総論(2)	2	悪性黒色腫臨床(2)
3	腫瘍発症のメカニズム総論(3)	3	悪性黒色腫臨床(3)
4	腫瘍発症のメカニズム総論(4)	4	悪性黒色腫発症メカニズム(1)
5	腫瘍転移のメカニズム総論(1)	5	悪性黒色腫発症メカニズム(2)
6	腫瘍転移のメカニズム総論(2)	6	悪性黒色腫発症メカニズム(3)
7	腫瘍転移のメカニズム総論(3)	7	悪性黒色腫発症メカニズム(4)
8	腫瘍転移のメカニズム総論(4)	8	悪性黒色腫治療(1)
9	メラノサイトの分化増殖(1)	9	悪性黒色腫治療(2)
10	メラノサイトの分化増殖(2)	10	悪性黒色腫治療(3)
11	メラノサイトの分化増殖(3)	11	悪性黒色腫最新の話題(1)
12	メラニン合成の制御(1)	12	悪性黒色腫最新の話題(2)
13	メラニン合成の制御(2)	13	悪性黒色腫最新の話題(3)
14	メラニン合成の制御(3)	14	悪性黒色腫最新の話題(4)
15	前期総合討論と発表	15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学
講義題目	皮膚病理組織学(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	村上富美子	担当教員連絡先	西部病院皮膚科
単位数	2 単位(前期1・後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	正常皮膚の組織学と皮膚疾患の病理学を学ぶ。		
講義計画	1. 正常皮膚の光学顕微鏡および電子顕微鏡所見を学ぶ。 2. 皮膚疾患の病理組織学を学ぶ。		
達成目標	1. 正常皮膚の光学顕微鏡および電子顕微鏡所見を理解し、説明できる。 2. 各種皮膚疾患の病理組織像を説明できる。		
教科書・参考書	Lever's Histopathology of the Skin		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席 <sup>㊟</sup> )	後期(回) 内 容 (出席 <sup>㊟</sup> )
1	皮膚生検標本の作製(1)		1 正常皮膚の電顕・表皮(1)
2	皮膚生検標本の作製(2)		2 正常皮膚の電顕・表皮(2)
3	皮膚生検標本の作製(3)		3 正常皮膚の電顕・表皮(3)
4	正常皮膚の光顕・表皮(1)		4 正常皮膚の電顕・表皮(4)
5	正常皮膚の光顕・表皮(2)		5 正常皮膚電顕・表皮真皮境界部(1)
6	正常皮膚の光顕・表皮(3)		6 正常皮膚電顕・表皮真皮境界部(2)
7	正常皮膚の光顕・表皮(4)		7 正常皮膚電顕・表皮真皮境界部(3)
8	正常皮膚光顕・表皮真皮境界部(1)		8 正常皮膚電顕・真皮(1)
9	正常皮膚光顕・表皮真皮境界部(2)		9 正常皮膚電顕・真皮(2)
10	正常皮膚光顕・表皮真皮境界部(3)		10 正常皮膚電顕・真皮(3)
11	正常皮膚の光顕・真皮(1)		11 正常皮膚電顕・真皮(4)
12	正常皮膚の光顕・真皮(2)		12 湿疹・皮膚炎の病理組織(1)
13	正常皮膚の光顕・真皮(3)		13 湿疹・皮膚炎の病理組織(2)
14	正常皮膚の光顕・真皮(4)		14 湿疹・皮膚炎の病理組織(3)
15	前期総合討論と発表		15 後期総合討論と発表

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学	
講義題目	皮膚病理組織学実習(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	門野岳史	担当教員連絡先	内線 3235	
単位数	2 単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	皮膚病理組織の読み方を実習する。			
講義計画	プレパラートを顕微鏡で観察し、その所見から診断名を考え、病態を推理する訓練を行う。			
達成目標	皮膚の病理組織を見て、その所見を述べ、考えられる診断と鑑別診断を上げ、その病態を推理して述べることができる。			
教科書・参考書	Lever's Histopathology of the Skin			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席 <sup>㊟</sup> )	後期(回)	内 容 (出席 <sup>㊟</sup> )
1	正常皮膚の表皮(1)		1	蕁麻疹の病理組織(1)
2	正常皮膚の表皮(2)		2	蕁麻疹の病理組織(2)
3	正常皮膚の表皮(3)		3	蕁麻疹の病理組織(3)
4	正常皮膚の表皮(4)		4	紅斑症の病理組織(1)
5	正常皮膚・表皮真皮境界部(1)		5	紅斑症の病理組織(2)
6	正常皮膚・表皮真皮境界部(2)		6	紅斑症の病理組織(3)
7	正常皮膚・表皮真皮境界部(3)		7	紅皮症の病理組織(1)
8	正常皮膚の真皮(1)		8	紅皮症の病理組織(2)
9	正常皮膚の真皮(2)		9	紅皮症の病理組織(3)
10	正常皮膚の真皮(3)		10	薬疹の病理組織(1)
11	正常皮膚の真皮(4)		11	薬疹の病理組織(2)
12	湿疹・皮膚炎の病理組織(1)		12	薬疹の病理組織(3)
13	湿疹・皮膚炎の病理組織(2)		13	母斑症の病理組織(1)
14	湿疹・皮膚炎の病理組織(3)		14	母斑症の病理組織(2)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学	
講義題目	皮膚の細胞生物学		必修/選択	必修
担当教員	相馬良直	担当教員連絡先	内線 3235	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	皮膚を構成する細胞の細胞生物学と、基本的な研究技法を学ぶ。			
講義計画	ケラチノサイト、メラノサイト、線維芽細胞、血管内皮細胞など、皮膚を構成する主な細胞の培養方法や研究手技を学ぶ。			
達成目標	1. 上記細胞の増殖条件や維持管理法を説明できる。 2. 細胞を使用した代表的な実験手技を理解し、説明できる。			
教科書・参考書	基礎生化学実験法 第2巻(東京化学同人)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	組織培養法・総論(1)		1	共焦点顕微鏡
2	組織培養法・総論(2)		2	電子顕微鏡
3	無菌操作法		3	ケラチノサイト(1)
4	培地(1)		4	ケラチノサイト(2)
5	培地(2)		5	ケラチノサイト(3)
6	継代法		6	メラノサイト(1)
7	細胞クローニング法		7	メラノサイト(2)
8	凍結、保存、融解		8	メラノサイト(3)
9	細胞数の測定		9	線維芽細胞(1)
10	DNA合成測定		10	線維芽細胞(2)
11	アポトーシス		11	線維芽細胞(3)
12	細胞遊走能		12	血管内皮細胞(1)
13	フローサイトメトリー		13	血管内皮細胞(2)
14	細胞小器官の分離		14	血管内皮細胞(3)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	皮膚免疫学(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員	相馬良直	担当教員連絡先	内線 3237		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	皮膚の免疫学の臨床と研究技法を学ぶ				
講義計画	免疫が関与する疾患の臨床と、免疫学的研究技法を学ぶ。				
達成目標	1. 免疫が関与する疾患の病態を理解し、説明できる。 2. 最新の免疫学の研究技法を理解し、実践できる。				
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	蛍光抗体法(1)		1	ノーザンブロット法(1)	
2	蛍光抗体法(2)		2	ノーザンブロット法(2)	
3	免疫染色法(1)		3	ノーザンブロット法(3)	
4	免疫染色法(2)		4	RT-PCR法(1)	
5	免疫染色法(3)		5	RT-PCR法(2)	
6	フローサイトメトリー(1)		6	real-time PCR法(1)	
7	フローサイトメトリー(2)		7	real-time PCR法(2)	
8	ELISA(1)		8	real-time PCR法(3)	
9	ELISA(2)		9	in situ hybridization法(1)	
10	ELISA(3)		10	in situ hybridization法(2)	
11	ウェスタンブロット法(1)		11	サザンブロット法(1)	
12	ウェスタンブロット法(2)		12	サザンブロット法(2)	
13	ウェスタンブロット法(3)		13	プロテオミクス(1)	
14	共焦点レーザー顕微鏡		14	プロテオミクス(2)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認 ⑩



学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	皮膚腫瘍学(Ⅱ)		必修/選択 必修		
担当教員	村上富美子	担当教員連絡先	内線 西部病院		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	皮膚腫瘍の臨床と、腫瘍学の研究技法を学ぶ。				
講義計画	各種皮膚腫瘍の臨床と、免疫染色、電子顕微鏡、分子生物学的手法などの最新の研究方法を学ぶ。				
達成目標	各種皮膚腫瘍の臨床と、最新の研究技法を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	基底細胞癌臨床(1)		1	皮膚腫瘍の免疫染色(1)	
2	基底細胞癌臨床(2)		2	皮膚腫瘍の免疫染色(2)	
3	基底細胞癌発症メカニズム(1)		3	皮膚腫瘍の免疫染色(3)	
4	基底細胞癌発症メカニズム(2)		4	皮膚腫瘍の電子顕微鏡(1)	
5	基底細胞癌治療(1)		5	皮膚腫瘍の電子顕微鏡(2)	
6	基底細胞癌治療(2)		6	皮膚腫瘍の電子顕微鏡(3)	
7	有棘細胞癌臨床(1)		7	皮膚腫瘍の分子生物学的手法(1)	
8	有棘細胞癌臨床(2)		8	皮膚腫瘍の分子生物学的手法(2)	
9	有棘細胞癌発症メカニズム(1)		9	皮膚腫瘍の分子生物学的手法(3)	
10	有棘細胞癌発症メカニズム(1)		10	パジェット病(1)	
11	有棘細胞癌治療(1)		11	パジェット病(2)	
12	有棘細胞癌治療(2)		12	パジェット病(3)	
13	ボーエン病(1)		13	その他の皮膚腫瘍(1)	
14	ボーエン病(2)		14	その他の皮膚腫瘍(2)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	皮膚病理組織学(Ⅱ)		必修/選択 必修		
担当教員	川上民裕	担当教員連絡先	内線 3236		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	皮膚疾患の病理学を学ぶ。				
講義計画	皮膚疾患の病理組織学の各論を学ぶ。				
達成目標	各種皮膚疾患の病理組織像と、その病態との関係を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	Lever's Histopathology of the Skin				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	蕁麻疹の病理組織(1)		1	炎症性角化症の病理組織(1)	
2	蕁麻疹の病理組織(2)		2	炎症性角化症の病理組織(2)	
3	紅斑症の病理組織(1)		3	角化症の病理組織(1)	
4	紅斑症の病理組織(2)		4	角化症の病理組織(2)	
5	紅皮症の病理組織(1)		5	色素異常症の病理組織(1)	
6	紅皮症の病理組織(2)		6	色素異常症の病理組織(2)	
7	薬疹の病理組織(1)		7	代謝異常症の病理組織(1)	
8	薬疹の病理組織(2)		8	代謝異常症の病理組織(2)	
9	母斑症の病理組織(1)		9	爪甲関連疾患の病理組織(1)	
10	母斑症の病理組織(2)		10	爪甲関連疾患の病理組織(2)	
11	水疱症の病理組織(1)		11	皮膚良性腫瘍の病理組織(1)	
12	水疱症の病理組織(2)		12	皮膚良性腫瘍の病理組織(2)	
13	膿疱症の病理組織(1)		13	その他の疾患の病理組織(1)	
14	膿疱症の病理組織(2)		14	その他の疾患の病理組織(2)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学	
講義題目	皮膚病理組織学実習(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	川上民裕	担当教員連絡先	内線 3237	
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	皮膚病理組織の読み方を実習する。			
講義計画	プレパラートを顕微鏡で観察し、その所見から診断名を考え、病態を推理する訓練を行う。			
達成目標	皮膚の病理組織を見て、その所見を述べ、考えられる診断と鑑別診断を上げ、その病態を推理して述べることができる。			
教科書・参考書	Lever's Histopathology of the Skin			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	水疱症の病理組織(1)		1	代謝異常症の病理組織(1)
2	水疱症の病理組織(2)		2	代謝異常症の病理組織(2)
3	水疱症の病理組織(3)		3	代謝異常症の病理組織(3)
4	膿疱症の病理組織(1)		4	爪甲関連疾患の病理組織(1)
5	膿疱症の病理組織(2)		5	爪甲関連疾患の病理組織(2)
6	膿疱症の病理組織(3)		6	爪甲関連疾患の病理組織(3)
7	炎症性角化症の病理組織(1)		7	皮膚良性腫瘍の病理組織(1)
8	炎症性角化症の病理組織(2)		8	皮膚良性腫瘍の病理組織(2)
9	炎症性角化症の病理組織(3)		9	皮膚良性腫瘍の病理組織(3)
10	角化症の病理組織(1)		10	皮膚良性腫瘍の病理組織(4)
11	角化症の病理組織(2)		11	その他の疾患の病理組織(1)
12	角化症の病理組織(3)		12	その他の疾患の病理組織(2)
13	色素異常症の病理組織(1)		13	その他の疾患の病理組織(3)
14	色素異常症の病理組織(2)		14	その他の疾患の病理組織(4)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	皮膚微生物学		必修/選択	必修	
担当教員	門野岳史	担当教員連絡先	内線 3236		
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	皮膚疾患の原因となる細菌、ウイルス、真菌の基礎と臨床を学ぶ。				
講義計画	皮膚疾患の原因となる微生物について、その増殖方法、引き起こす疾患、取り扱いと研究方法などを学ぶ。				
達成目標	1. 皮膚疾患の原因となる細菌、ウイルス、真菌の種類と引き起こす疾患を説明できる。 2. これらの微生物の取り扱いと主な研究手技を説明できる。				
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	皮膚細菌感染症総論		1		
2	急性膿皮症(1)		2		
3	急性膿皮症(2)		3		
4	慢性膿皮症		4		
5	全身性感染症		5		
6	その他の皮膚細菌感染症		6		
7	皮膚ウイルス感染症総論		7		
8	水疱を主とする皮膚ウイルス感染症		8		
9	疣贅を主とする皮膚ウイルス感染症		9		
10	その他の皮膚ウイルス感染症		10		
11	皮膚真菌感染症総論		11		
12	白癬		12		
13	カンジダ症		13		
14	その他の皮膚真菌感染症		14		
15	総合討論と発表		15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	皮膚科治療学		必修/選択 選択		
担当教員	川上民裕	担当教員連絡先	内線 3236		
単位数	2単位 (前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	皮膚疾患の治療法の基礎と臨床を学ぶ。				
講義計画	外用療法、全身療法、光線療法、手術療法などの皮膚疾患の治療法の原理と実際を学ぶ。				
達成目標	皮膚疾患の治療法の原理とその実際を理解、説明、実践できる				
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	外用療法総論		1	全身療法:ステロイド(1)	
2	外用薬:ステロイド(1)		2	全身療法:ステロイド(2)	
3	外用薬:ステロイド(2)		3	全身療法:抗ヒスタミン薬	
4	外用薬:ステロイド(3)		4	全身療法:抗菌薬	
5	外用薬:抗真菌薬(1)		5	全身療法:抗ウイルス薬	
6	外用薬:抗真菌薬(2)		6	全身療法:抗真菌薬	
7	外用薬:抗菌薬		7	全身療法:免疫抑制薬	
8	外用薬:抗ウイルス薬		8	全身療法:抗悪性腫瘍薬	
9	外用薬:免疫抑制薬		9	全身療法:レチノイド、DDS など	
10	保湿系外用薬		10	紫外線療法	
11	ビタミンD3外用薬		11	レーザー療法	
12	NSAID外用薬		12	放射線療法	
13	レチノイド系外用薬		13	液体窒素療法	
14	古典的外用薬		14	手術療法	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	皮膚科学の歴史		必修/選択	選択	
担当教員	相馬良直	担当教員連絡先	内線 3235		
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1年履修年次		
テーマと目的	世界と日本の皮膚科学発展の歴史を学ぶ。				
講義計画	1. ヒポクラテスから近代まで 2. 欧米と日本における近代皮膚科学の発展 3. 21 世紀の展望				
達成目標	皮膚科を中心とした世界と日本の医学史について説明できる。				
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席ⓐ)	後期(回)	内 容	(出席ⓐ)
1	世界の皮膚科学(ギリシャ時代～中世)		1		
2	日本の皮膚科学(江戸時代以前)		2		
3	記載皮膚科学の誕生		3		
4	皮膚病理組織学の発展		4		
5	病原微生物の発見と皮膚感染症		5		
6	日本の皮膚科学の祖:土肥慶蔵		6		
7	日本皮膚科学会の歴史		7		
8	皮膚科専門医制度の変遷		8		
9	アメリカの皮膚科学		9		
10	20 世紀の研究皮膚科学の進歩		10		
11	各論:梅毒		11		
12	各論:ハンセン病		12		
13	各論:痘瘡(天然痘)		13		
14	21 世紀の皮膚科学の展望		14		
15	総合討論と発表		15		

講義担当者承認

ⓐ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学		
講義題目	色素異常症		必修/選択	選択	
担当教員	門野岳史	担当教員連絡先	内線 西部病院		
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	色素異常症の基礎、臨床、研究方法を学ぶ。				
講義計画	色素異常症の基礎、臨床、研究方法を学ぶ。				
達成目標	1. 色素異常症の分類を理解し、説明できる。 2. 色素異常症の原因、病態、症状、治療、予後を理解し、説明できる。 3. 色素異常症を研究する手段を説明できる。				
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	色素異常症:総論		1		
2	眼皮膚白皮症(OCA)(1)		2		
3	眼皮膚白皮症(OCA)(2)		3		
4	まだら症		4		
5	色素異常を呈する母斑、母斑症		5		
6	尋常性白斑		6		
7	その他の後天性色素脱失症		7		
8	遺伝性色素異常症(遠山、北村)		8		
9	紫外線と色素沈着		9		
10	肝斑		10		
11	老人性色素斑		11		
12	後天性対称性真皮メラノサイトーシス		12		
13	内分泌疾患による色素異常		13		
14	異物沈着症		14		
15	総合討論と発表		15		

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	皮膚科学
講義題目	角化異常症		必修/選択 選択
担当教員	村上 富美子	担当教員連絡先	内線 3235
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	2 年
テーマと目的	角化異常症の基礎、臨床、研究方法を学ぶ。		
講義計画	角化異常症の基礎、臨床、研究方法を学ぶ。		
達成目標	1. 角化のメカニズムを説明できる。 2. 角化異常症の原因、病態、症状、治療、予後を理解し、説明できる。 3. 角化異常症を研究する手段を説明できる。		
教科書・参考書	皮膚科学(文光堂、2006)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、授業後にはレポートを提出すること 1 時間		
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回) 内 容 (出席⑩)
1			1 乾癬(1)
2			2 乾癬(2)
3			3 乾癬(3)
4			4 類乾癬
5			5 扁平苔癬
6			6 毛孔性紅色皰糠疹
7			7 ジベル蓄積性皰糠疹
8			8 先天性魚鱗癬
9			9 後天性魚鱗癬
10			10 魚鱗癬を呈する先天性症候群
11			11 掌蹠角化症
12			12 Darier 病
13			13 汗孔角化症
14			14 その他の角化症
15			15 後期総合討論と発表

講義担当者承認

⑩